

会報

栃木県中学校長会

発行日 昭和三十九年一月八日

中学校教育の充実強化

― 県および県教委に陳情 ―

中学校教育の充実強化をはかるには、中学校を中等教育の体系の中に正しく位置づけ、これに即した人物との教育条件を整備することが重要であることはいうまでもない。とくに人づくりが国の政策にとり上げられている今日、中学校に人材を誘致し、さらに教育効果を向上させることはきわめて緊急な問題であつて、そのためには教職員の待遇を改善し、教職員の組織の強化につとめ、その研修についても十分な財政的裏づけが必要である。栃木県中学校長会は、昭和三十八年度の目標の一つとして、中学校に優秀教員確保の問題をとりあげ、前記の点について各方面にその実現を要望して来たのである。

去る十二月三日には、県中学校長会幹事会を開催し、直ちに知事部局に館野、岩崎、島田、氏家、萩原の各校長、教育委員会に大橋、長野、永塚、友清、小松原の各校長が、二手に分れてそれぞれに陳情した。知事、副知事には東京出張のためお会いできなかったが、議会関係では沢田副議長に面会して懇談することができた。そして私達の説明に熱心に耳をかたむけ、陳情書にメモしながらその実現方に努力することを約束された。また県教育委員会では、たまたま委員会開催中のため、教育長に代つて次長に面会し、陳情の事柄は県教委の長期計画に盛り込まれていることを共通しているので、その線に添つて努力するとの話であつた。

以上陳情書の概要であるが当日持参した陳情書の要項は次の通りである。

一、教職員待遇改善について

- 1 初任給の引上げ
- 2 昇給期間の短縮
- 3 優秀教員の抜てき増俸

事業部便り

- 二、教職員の組織強化について
- 1 事務職員の必置
- 2 生徒指導主事のわく外設置
- 3 養護教諭の増員配置
- 4 特殊学級一学級あたり教員二名の配

例年御協力を戴きまして有難う御座います。今年度も、生徒手帳、週案、中学生の新しい道、安全テストを取り扱うことになっていますが、安全テストと週案の申込が意外に少ないので驚いています。安全テストは三学期より実施の予定ですが恐らく新学期よりとお考え違いなすつて居る事と存じます。県下で二十六校の申込みです。市町村教育長部会のサゼツシヨンがあり、校長会で検討し使用することに決定した事実については、余りに熱のない話なので御一考を煩わしいと思ひます。週案は一校のみです。今迄の中学生の作法は、新しい道と改訂され、本県からも三人の道徳の専門家が編集員に選ばれ文部省より示されている三領域二十一項目も詳細に取りあげ道徳の『栃木県版』とも言うべき立派なものですので奮つて御使用の程願ひ上げます。近日中に見本各校へ配布になる予定になって見ます。(長野誌す)

謹賀新年

甲辰閏年の新春を迎え、校長諸氏の御多幸と御活躍をお祈りすると共に栃木県中学校長会が益々発展の一路を辿つていくことをお祝ひ申し上げます

昭和三十九年元旦

栃木県中学校長会

三、教職員の研修について

- 1 中学校教育研究団体への県費補助金の増額
 - 2 研究指定学校に対する県費補助金の増額
 - 3 旅費の増額
- (赴任旅費は別途に計上すること)

町村教育長部会のサゼツシヨンがあり、校長会で検討し使用することに決定した事実については、余りに熱のない話なので御一考を煩わしいと思ひます。週案は一校のみです。今迄の中学生の作法は、新しい道と改訂され、本県からも三人の道徳の専門家が編集員に選ばれ文部省より示されている三領域二十一項目も詳細に取りあげ道徳の『栃木県版』とも言うべき立派なものですので奮つて御使用の程願ひ上げます。近日中に見本各校へ配布になる予定になって見ます。(長野誌す)

第十四回全中、高松大会報告

一、大会期日 十一月九日—十一日
 二、会場 香川県高松市
 三、本県参加者 四十一名
 四、状況

瀬戸の海を渡り、会場の高松市民会館には、国旗もあざやかに、その両側には議題が整然と掲示され、演壇に飾られた松の古木は、会場を一きわびきしめていた。本県の座席は右側最先端

◆開会式
 定刻の放送とともに、開会式が開始される。

開会宣言八時三十分、沢畑大会長の挨拶に始まり来賓の祝辞、(文部大臣、香川県知事は未だ会場に到着していない)。県議長ほか多数の来賓の祝辞があり、最後に開催県香川県中学校長会長宇喜多校長の歓迎のこたばがあって式は終る。

○全体討議
 議長団が選出され、ただちに次の議題九項目について討議が開始された。

第一号 教員養成制度と免許法の改善について。
 第二号 中学校設置基準案の修正について。
 第三号 学級あたり基準制定につ

いて。
 第四号 中学校における教員組織を正常化するための方策について。
 第五号 進路指導主事の専任化について。
 第六号 科学技術教育の振興策について。
 第七号 中学校教職員給与の問題点とその対策について。
 第八号 教育における人間尊重と人間疎外について。
 第九号 府県単位教職員研修団体のあり方について。

以上の議案について討議中内藤文部次官、香川県知事が会場に到着、直ちに祝辞をいさぐ。午前中第六号議案まで討議し研究は午後分科会に持ちこまれた。

○分科会
 午後は八分科会に分散し、それぞれ研究討議した。
 ◆第二日(十一日)
 午前九時開始、全体会場市民会館で行われた。

○全体会議
 予定通り昨日の分科会の報告と残り議題の検討が続けられ、さらに大会宣言を採択議決して一応の終符符

をうった。昼食、シクリエーション午後には倉敷レヨン社長大原総一郎氏による「日本経済と人づくり」の演題のもとに記念講演があり、閉会式、これですべての大会行事は終了したわけであるが、つづいて屋島、栗林公園等高松市内を見学した。

さてこの大会を通じて感ぜられることは、先づ開会の祝辞のなかで、香川県教育長は教育は多事であったが、多難ではなかったと、暗に県の教育が正常に行われてきたことを言い切っていたし、また文部次官は形式的にはととのつてきたがこれからは質的に充実してゆく方策を取りたいなど、いろいろな当面の問題点を指摘し文部省の考えを述べこれからの方向を示した。

集まった校長各位も真剣に中学教育の振興についてかたり、ただし大会場至るところにその熱意を感じるものが出来た。
 そしてこの大会から学力向上、生徒の非行対策等、いくた問題を持つ中学校の教育に、今後解決すべき示唆を得たことは大きな収穫であった。

その(一)は、一学校一学級だけが如何に立派になっても教育全体は振興しない。全県一丸になって研究し組織化した全体の方で、これらの問題に対決することこそ教育水準を高

める最もよい手段であることも知らされたし。
 その(二)は研究は高度な科学的実態調査とすぐれた知性によって推論されたことの基礎にたつて毎日の指導を積み重ねなければならぬとの確信を深めたし。

迎春抄

岩崎良能
 塵一つなき玻璃空よ初日さす庭にたすみ住き年祈る
 初春を真幸くあれと若人にことほぐ吾は老を思わず
 世の隅にひそかに生きし友なりき絶えて久しい賀状手に取る

その(三)は大原先生の講演のなかから常識以上の責任感を持つような日本人を育てなければ真の民主主義は向上しない。美しい魂によつてつ

くられる新しい社会、その社会を生み出すような人づくりこそこれからの教育の仕事であろうとも教えられた。
 いずれにしろ学力水準の高いといわれる香川県高松市で、しかも美しい瀬戸内の海を渡り、暖かいこの地に全中大会が持たれ、中学校教育の諸問題が討議研究され、その方向、その方法等、強大な推進力を感じ取り、大会に参加したことを意義深く感じた。(城山中 戸田博臣)

禅と庭

(真珠庵と大仙院)

自然が絶対なのか、人工が自然の精神をより止揚するのか、——とにかく真珠庵の庭はまことに天然と人工とが織りなすとも妙なる調べを大きく思っている。

わずかにおくれ紅葉した幾本かの樹木を通して、遠く見せている山のゆつたりとした姿と、低く植え込まれた雑木のいけ垣とを分けている土塀。——その軒なみがどうして曲線に感じられ、じつと見ていると不思議にそれがゆらめいてさえるのである。

それはわたしの錯覚なのであろうか。あるいは低く、時には高めに七つ、五つ、三つと組んで石を植えた珠光のなせる芸の至りであろうか。

あやしくも、かすかに赤味を帯びた紫の、あわい影のただよう小障子の茶室。かたわらにわずかに植えた石と木と、苔の青い深さがもの苦し

一切の虚偽と妥協とを排して絶対の真実を求めてやまぬ禅の心境そのものであろうか。この世界に生きぬいた一休禅師の深くかなしいよろこび。そのひたむきな心意気をいま真珠庵の庭に見るかのようである。

大仙院の枯山水は、意外に小規模ではあるし、どことなく無骨さがあるつざりとさらけ出してこだわりがないようである。

だが、深い山から湧き出た水が、やがて落ちて滝となり、走ってははげしく岩に砕け、時によどんで洩をつくり、さらに里近くながれ流れて大海となる。まさに水の生涯を語る絵巻物である。しかも、この姿そのまが人の一生でもあつて。運命に泣き、悩みさまよいながらも、ついに法の大生命に帰一融和するとの暗示でもあろうか。

ともあれ、さすがにここは沢庵禅師が住まったといわれる寺だけあつ

て狭い東庭にかくもみことな石の数々を調和させ、しかも、どの部分をとつても、そのいづれもが生きた一幅の山水画となっている。

あとで、ふとわたしの胸をかすめたことは、いかにもわたしどもの身ぢかに、いまにもすくい得るかのよう流れていた大仙院の水が、大徳寺の庭につづくように思われてきたのである。

そしてあの大徳寺の広い庭が、その大海だとするならば、そこからなおも海深く、より純一無雑な宝を求めて進み行く幾そうかの船、それこそが真珠庵、七五三の石組みではなからうか。

さらつとして、一見無骨そうにも思われる大仙院と、あくまで繊細で純粹そのものの如き真珠庵と、いかにも矛盾したような庭の性格ではあるが、禅のさいごに到達するところは、その現象の矛盾を越えた絶対の境地であることをさとされた思いがするものである。

黒田 邦博

一学期のメモから

△標準法の通過——十二月十四日法案危うしとの情報があつて閣プロ理事が緊急に召集された。とたんに上程され成立と情勢が変り一同直ちにお礼廻りとはめでたい限り。

△中学校総合教育研究会の発足——中学校教育を一層推進させるために各種研究団体の調和的統合をめざす——当然進むべき方向——来年度からはすつきりして出発したい。

△教員の優遇についての陳情——人材を確保しなければこの危機を乗り越えることは出来まい。果ても今度は本腰のようだ。(なお全組織をあげて公立学校施設予算増額陳情が行われた。その折給与三本建が義務教育推進の妨げになつていことが論じられた由。

△修学旅行会——いよ／＼今春より実施早く県内大同団結してその効果あげたい。

△県議有志との懇談——十二月十九日、小中学校長会合同で開催、会長及各部長出席。

関ブロから

(理事會協議事項)

関東ブロ中学校長会理事會が昨年十二月五日、六日の両日、船橋市において開催された。

協議事項

(一)第十六回関東甲信越地区中学校長会研究協議會(千葉大会)並に第八回總會開催について

1. 期日

昭和三十九年六月十七日(水)

総會

六月十八日(木)

同十九日(金) 大会

(全国学力調査の期日 決定によつては変更することもある)

2. 会場 館山市立第二中学校

3. 参加會員数 八七〇人

4. 會費 一、〇〇〇円 宿泊料一泊一五〇〇円

5. 研究協議題

基本方針として、中心議題を一つにしほり、その内容を分析して各分科会により研究討論する。したがつて各都県からは従来のような研究協議題は提出せず、中心議題の内容を分け各都県が分担してこれが運営にあたる。

◎中心議題 学校教育における責任の限界について

(二)専門委員會開催について
学校教育における責任の限界について(生徒補導を中心として)

の中心議題を研究するための専門委員會を開催し、各都県における問題点、事例等を持ちより協議する。

期日 一月二十一日午前十時

会場 東京都 一橋中学校

専門委員

東京都練馬区開進第四中学校長

松本和三郎

神奈川県川崎市住吉中学校長

鹿野孝一

千葉県山武郡松尾中学校長

土屋 武一

埼玉県羽生市羽生中学校長

小川美一郎

栃木県佐野市北中学校長

小松原吉蔵

茨城県水戸市第一中学校長

川崎 新一

群馬県伊勢崎市南中学校長

橋本福太郎

新潟県北魚沼郡川口中学校長

牧野 寅雄

長野県更埴市屋代中学校長

西村 政長

山梨県甲府市南中学校長

石部 一臣

(三)全日本中学校長会新潟大会への協力について地元ブロックとして、資金面、役員、會員等について全面的に協力する。

資金 一校二〇〇円拠出
栃木、神奈川、長野は納入済み

(四)関東甲信越地区中学校長会負担金増額について
現在の経済事情から、昭和三十九年度は年間一校宛五〇円を一〇〇円とする。
(関東甲信越地区中学校長会幹事小寺三五七)

関修協から

○昭和四十年年度

○関東地区専用列車名募集

申込期日 二月十五日

経 費 生徒一人約 四千五百円

申込みには人員もそえて報告された

し

募集〆切 二月十五日

申込場所 宇都宮市立一条中学校内

栃木県中学校修学旅行会

三月月中旬まで

に御届け出来

るよう進めたいと思

ついても更に

○県内研究学校に

関するもの

○退会された先輩

方よりの御寄稿

○各位の詩歌

等もお願して親

しみのある我等の

會報に致したいと

存じますので何分

の御協力を切望

します。

(庶務部長 大橋生)

あとがき

が参加されるよう願っている。

新年おめでとうございます。會員の皆様には御健勝で学校経営の構想も新たに、よき年を近えられました事を心から御祝福申しあげます。第五号は全国大会の様子を主に、更に我々の意思を関係当局に御願する為の陳情の内容及具体的状況等について、各位に充分承知していただきたく掲載してみました。なお会長さんから特に随想をいただきました。第六号は、三月月中旬までに御届け出来るよう進めたいと思ついても更に

発行人 会 長 黒田 邦博
(宇都宮市立一条中学校長)
編集人 庶務部長 大橋 信一
(宇都宮市立陽南中学校長)
印刷所 三共印刷株式会社
(宇都宮市旭町三の三三四三)